

蘇生 2nd

2022 年度宝仙学園共学部高校 2 年学年通信

No. 2 6

2023/2/7

橋本真生

～ 「0」から「1」を生み出すには… ～

約 1 週間に及ぶ入試休みは、いかがでしたか？メリハリをつけて、有意義に過ごせたでしょうか？大学入試に目を向けてみると、医学部や一部の女子大を除き、私立大学の個別入試は一般的に 2 月から始まっていきます。宝仙の 6 年生の先輩の中には今日この日も、必死に戦っている人がたくさんいるんですね。そういう勝負に挑むことで、人は一回りも二回りも大きく成長していきます。現代文の授業でも、「大学受験は現代における一種のイニシエーション（通過儀礼）的な役割を担っている」という話をしましたが、みんなも来年の 3 月には、今の自分では見えなかったものにたくさん気づくようになるはずですよ。それはもちろん、可否に関係なく、です。最後まで「自己ベストの更新」を目指して戦い続けた人だけに、その機会は訪れます。そしてその成長した自分が、未来のあなたをいろんな場面で助けてくれるのは間違いありません。大学受験を通じての自分の成長を楽しみに、1 年間、みんなで切磋琢磨してともにがんばり、少しずつ人間的な豊かさを育てていきましょう！

さて、社会や世の中が目まぐるしく変化し続けている現代において、よく言われるのが「創造力（クリエイティビティ）の大切さ」です。つまり、「0 から 1 を生み出す力」ですね。一般的には既にあるものに手を加えてそれをよりよいものへと発展させていくことよりも、なにもないところから新たに創り出すことの方が難しいとされます。何事もそうですが、0 から何かを創り出すって本当に難しいですね。先例がないわけですから全てが未知の領域であり、どのようにしたらうまくいくのか見当もつかない…といったところから始まるわけです。喩えていうなら、既に一度敷かれた道をよりよいものに整備していくのではなく、目的地もはっきりとは定まらない中、目の前に広がる荒野に新しい道を作っていくような作業です。想像するだけでも大きな苦勞がしのばれることと思います。

でも一方で、自ら道を切り拓いていくことの楽しさ、ワクワク感、充実感もみんなはよく知っているはずですよ。例えば宝仙祭。今までであったものの二番煎じ、三番煎じではなく、どのクラス、団体も創造性にあふれた企画を見事にやり遂げたと思います。企画を立ち上げた当初は「いったいどんなことになるのやら…」という不安が大きかったことと思います。当然ですよ。未知なるものへのチャレンジと、その時に感じる不安とは表裏一体をなすものですから。不安のない挑戦はありえませんし、逆に言うと不安があるからこそ挑戦しがいがあるし、達成感もひとしおなんだと思います。あるいは修学旅行もそうでした。例年の高 2 生が行っている場所ではないところに、自分たちでまさにコースを新しく敷いていった旅行でしたが、だからこそワクワクした、充実感のあるものになり得たはずなのです。今までになかったものを創造するというのは、多大なる労力を必要とする一方、ものすごくやりがいや満足感を得られるものでもありますよね。

ただ、創造力が大事だと言われて「それはそうだ」と思ってみても、どのようにしてその力を身につけていけばいいかとなると、ハタと困ってしまう人が多いのではないのでしょうか。誰も思いつかないようなことを考え出し、それを軌道に乗せていって本当に難しいですよね。巷ではよく、いわゆる学歴の高い人は頭でっかちで、思考の柔軟性に欠けると言われたりします。ペーパーテストの点数を追求して知識ばかりを詰め込んで、頭が固い人が多いのだと。たしかに、そういう側面もあるかもしれませんが、創造性というのは一般に、既存の枠や常識からいかに外れるか…という部分もありますから、知識偏重型の人に創造性を求めるのはなかなか難しいようにも思います。では逆に、大人になるまでにあまり勉学に励んでこなかった人の方が、創造性あふれる思考ができるのでしょうか。みんなは、どちらのタイプの方が創造性に優れていると思いますか？

どちらが正解と言うつもりは全くありませんが、僕は今までの経験から、いわゆる学力と創造力とはある程度、相関性があるのではないかと感じます。なぜか。以下にその理由を述べます。(なんだか、小論文みたいになってきました…笑。)

まず大きいのは、先ほども書いた通り、創造性には既存の枠にとらわれない柔軟さが求められますが、枠を外れようとするためには、当然ですが枠そのものに精通していなければなりません。「枠」とはその物事における常識や、それにまつわる従来の価値観の変遷などを指しますが、それを知らずしてクリエイティブな思考はほぼ不可能に近いと思います。常識を外れるのは誰にでもできることですが(よろしくない方向の外れ方をしようと思えばいくらでもできてしまいますが)見る者に今までにない斬新さを感じさせる外し方ができるというのは、しっかりとした知識の裏づけがあってこそなせる業だと思えます。

もうひとつは、創造性というのはなにもないところから降ったようにおいてくるものではなく、やはり源泉というか、その元となるものを必ず必要とします。では、その源泉とは何か？それは自分の中にある、さまざまな知識であったり経験であったり雑学であったり教養であったり…。そういったものを蓄積している人は、その源泉の中にある知識と知識が、あるいは経験と教養が、はたまた経験と経験とが、ふとしたことをきっかけとして結びつき、化学反応を起こして斬新なアイデアが誕生するということになります。アイデアの源泉が干からびて空っぽであれば、そこからクリエイティブな発想は到底生まれません。ということは、今のみんなにとって大事なものは、ある分野に偏らない、多種多様な知識やモノの見方を自分の中にできるだけたくさん取り込んでおくことです。そして、自分の中の泉に、きれいな水を並々と湛えておくことです。それがいつか、自分でも気がつかないうちに「創造力の源泉」となり、あなたに斬新なアイデアをもたらしてくれることでしょう。「この科目は大学受験に使わないから必要ない」なんていう姿勢でいる人は、自分の泉を自ら枯らしにしているようなもので、本当にもったいないことだと思います。みんなのゴールは、大学受験などという目先の小さなものではないはずですよね？先ほど述べた「知識ばかり詰め込んで頭が固い人」というのは、もしかしたら受験だけのために勉強に邁進してきた人のことなのかもしれません。

近年、インターネットの普及により、知らないもの、わからないものをすぐにネットで「ググれば」たいいてい情報は手に入るようになってきました。でも、「だから自分の頭の中に知識がなくても大丈夫！」というのは決定的に間違っています。なぜそれが間違っているかは、ここまで読んできたみんなにはもうおわかりですね？いろんなところにアンテナを張って、どんなことにもおもしろさを見出せる「知的好奇心の旺盛な人」が、最終的にはハッピーになれるのだと思います。